

医療コミュニケーション学・演習 (3年後期分) Medical Communication

薬：F2-01302MY

医療科目 3～4年／前・後期 1単位 必修科目

科目責任者 町田 いづみ(医療コミュニケーション学研究室)

■教育目的

医療を担う専門職としての意識(プロフェッショナルリズム)を向上させる。

「患者中心の医療」を実践するために必要な患者の身体状態のみならず、心理的・社会的背景を理解するための方法、および、コミュニケーション・スキルを習得し、自らで、効果的な治療を提供するための方策や応対方法について思考する。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、④】

■学習到達目標

1. 心理学的知識や技能を基に患者の心理・社会的状態を理解し適切に対応することができる(知識・技能・態度)
2. 患者中心の医療について理解し治療者として適切に対応することができる(知識・態度)
3. 予防医療の担い手としての役割を認識することができる(知識)
4. 患者の視点から疾患について理解し適切な方法で情報収集や情報提供ができる(知識・技能)
5. 緩和医療における薬剤師の役割について理解し適切な介入ができる(知識・技能・態度)

■準備学習(予習・復習)

復習：課題にそって復習する(45分以上)。

予習：課題にそって予習する(45分以上)。

*講義ごとに提示する予習・復習課題に取り組みレポートとして提出する。

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	医療コミュニケーション学の基礎-1 医療コミュニケーション学で学ぶこと	なぜ、薬剤師に医療コミュニケーション能力が求められるのかを理解する。 「薬剤師物語①」ビデオ視聴	A(1)-①-1～4 A(1)-②-1
2	医療コミュニケーション学の基礎-2 信頼関係の構築	患者-薬剤師間のラポール形成の重要性について理解する。 「薬剤師物語②」ビデオ視聴	A(3)-①-1～3 A(3)-①-7
3	医療コミュニケーション学の基礎-3 心理的防衛機制	心理学的知識や技能について理解し、薬物治療に応用させる。 「薬剤師物語③」ビデオ視聴	A(3)-①-4～9
4	医療コミュニケーション学の基礎-4 患者中心の医療	Narrative-based Medicine 患者のナラティブを理解し、個々の患者に対する情報提供に応用させる。	A(2)-③-1 A(3)-①-4～9
5	医療コミュニケーション学の基礎-5 情報の共有	Patient-centered Care 問題志向型システム(Problem oriented System)の概念を理解し、薬物治療に応用させる。	E3(2)-①-1,2
6	うつ病患者の理解と対応方法	身体疾患との合併率が高いうつ病の身体・精神症状を患者の視点から理解し、効果的な情報収集と情報提供の方法を習得する。	A(3)-②-1,2
7	不安障害患者の理解と対応	性格傾向、及び、不安障害患者の身体・精神症状を患者の視点から理解し、効果的な情報収集と情報提供の方法を習得する。	A(3)-②-1,2
8	アルコール依存症の理解と予防医療	薬物依存症患者の身体・精神症状の特徴を患者や家族の視点から理解し、薬剤師による予防医療推進の重要性について考える。	A(3)-②-1,2
9	統合失調症の理解と偏見への対応	統合失調症患者の身体・精神症状を患者の視点から理解し、本疾患の社会的問題の1つである「偏見」について考える。	A(3)-②-1,2
10	認知症とせん妄の理解と対応	身体疾患との合併率が高い認知症とせん妄患者の身体・精神症状を理解し、薬物治療上必要な注意点について考える。	A(3)-②-1,2

No.	項目	授業内容	SBO コード
11	緩和医療の理解	麻薬性鎮痛薬や非麻薬性鎮痛薬の特徴、及び、臨床適応上の知識や技能を習得する。	E2(1)-③-2 F(1)-②-3
12	緩和ケアにおける患者心理の理解と対応	患者の全人的痛みについて理解し、薬剤師としてやるべき患者サポートの方法について考える。	A(2)-③-3 A(3)-②-1,2
13	演習の準備	演習で使用する症例の理解と予習のポイントについて理解する。	A(2)-③-1 A(3)-①-4～9 E3(2)-①-1,2

■ 授業分担者

町田 いづみ(No.1～10、12、13)、野澤 玲子(No.11)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

成績評価：課題レポート(60 %) 受講態度と課題への取り組み態度(20 %)

【注】6 割以上の出席とレポート提出を必要とする。本科目の 3 年時の成績が 6 割(48 %)以上であることを 4 年時演習実施条件とする。

■ 参考書

『服薬援助のための医療コミュニケーション・スキル・アップ』町田いづみ 著(星和書店)

『薬剤師・薬学生のための医療コミュニケーション学』町田 いづみ 著(じほう)

『臨床研修医指導手引き』保坂 隆 編集(診断と治療社)

■ その他

本講義・演習は、3 年生後期の講義と 4 年生前期の演習(20 %：ルーブリック評価)を合わせて 1 単位とする。